

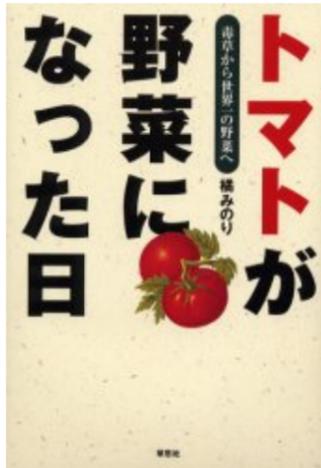
図書案内

2019年 7・8月号

担当 3-2H 松平 3-7H 志鷹

いよいよ夏が到来しました！ 勉強、部活、遊びなど、普段あまりできないことを満喫して欲しいと思います。今回は図書委員が夏休みに是非読んで欲しいと思う本を紹介しています。

忙しくて遠出できない人、夏休みに特に予定がない人、勉強や部活の息抜きに読書してみたい人はいかがですか？ 本は図書館で貸出しています。是非お立ち寄りください。



『トマトが野菜になった日』 橘みのり

その青臭さ。毒々しい赤色。栄養も少なく、食用にする価値は無い……そう言われてきたトマトが、いかにして世界中で愛される野菜の地位を獲得したのか。いかにして日本に伝えられたのか。著者は各国を旅し、その秘密を追います。アステカ王国を征服したことで名を挙げたコルテスや大富豪メディチ家、果ては醤油や味噌などとの意外な関係とは？ 気になる続きは本を読んでみてください。ちなみに、ヨーロッパの一部の国では、トマトは「愛のリンゴ」と呼ばれているそうです。(志鷹)

トマトはどこから来たのか。そして、どこへ行こうとしているのか。



『山がわたしを呼んでいる！』 浅葉なつ

女子大生のあきは夏休みに友人の紹介で山小屋へバイトに行く。しかしバイト先はボロ小屋、共に働く仲間も癖のある人たちばかり。果たしてあきは無事バイトを終えられるのか……!? 山小屋で働く人たちが普段どのような仕事をしているのかなど、あまり知らないことも多く載っていて、いろいろな発見があります。ところでみなさん、「キジ打ち」って何のことか分かりますか？(本書を読むと分かります)(松平)

進まなきゃ頂上には辿り着かないから、皆あるいてるんだと思うんだ。



『すいかの匂い』 江國香織

深く心に刻み込まれてしまった、あの夏の記憶。11人の少女たちの、繊細かつ残酷な秘密が、ビニールプールの感触、蝉の声、海の色、そしてすいかの匂いととも緻密なタッチで描かれています。ひとつひとつの話は独立していますが、そのなかには一貫した陽気と陰鬱が感じられます。あなたはきっと「このお話、わかる」という作品を見つけられることでしょう。(志鷹)

「蟻はね、酸っぱいんだ、ぶちっつつぶれると」



『サマー・ランサー』 天沢夏月

小学校時代、剣道界で神童と謳われた天智は、祖父の死をきっかけに剣が握れなくなっていた。高校に入学した4月、部活見学をしていた天智は同級生の里佳と出会い、彼女に誘われ、槍道の世界へと足を踏み入れていく。試合中の動きや思考の描写が細かく臨場感たっぷりに描かれていて、どんどん物語に引き込まれていきます。題名にも「サマー」と入っており、夏に読むのにうってつけではないでしょうか。(松平)

この青春をキラキラに生きなくてどうするんだよ。

台風のしくみが物理で説明できます

皆さん、夏です。夏と聞いて真っ先に思い浮かんだものは、そう、台風ですよね。酸素や窒素より密度の低い、水蒸気を多く含む海上の湿った空気が上昇気流を生み、底から再び湿った空気を吸い込むことで台風が発生します。上昇気流に吸い込まれるとき、その空気は地球の自転の影響を受け、北半球だと反時計回りに渦を巻きながら中心へ向かいます。しかし、渦を巻くときの遠心力により、風は中心まで到達できず、中心に穴を開けたままその周囲を上がって行きます。これが、台風の日ができる理由です。また、中心部では上昇した湿った空気が冷えて凝結が始まり、そのときに発生する凝縮熱で中心部と周囲との温度差が大きくなるので、さらに上昇気流が盛んになります。これが台風の発達機構です。このように、自然界で起こる出来事の背後にある基本法則や原理といった根本的な部分に物理が役立っているのですね。

【出典】『日常の物理事典』 近角聡信／著 東京堂出版 1994年

